

三條別院のご案内

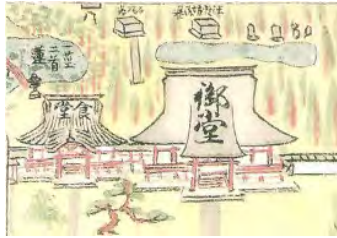
真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

E-mail : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp

三條別院に想う

昔、三條藩四万三千三百石が初めて創設されたのが元和二年（一六一六）、そのための三條城が記録では二百年弱続きその後洪水で壊された三條旧城の場所を避け、今の三條小学校付近に作られた市橋長勝の新三條城が竣工したのが翌三年で、今年は新三條城竣工四百年となる。しかしその新三條城は短命で、市橋長勝は在城四年六〇才で死去。子供はなく、廃藩になる所漸く甥に減封二万石相続となり近江仁正寺へ移封。その後柏崎から稲垣重綱が二万三千石で移り三條城主になったが、これも三年後の元和九年大阪城番となり転勤してしまい、三條藩は僅か七年で廃藩となり、三條城は長岡牧野家譜によれば寛永一九年（一六四二）破却されたという。



八八）には三條に移された。それと共に三條の繁栄に寄与したのが東本願寺掛所の元禄三年の誘致であろう。関ヶ原戦後日本国中が自分たちの生活を向上させるため、総力を挙げて取り組んだのが新田開発である。生活上は又自分たちのアイデンティティを深化させることでもある。小児往生を含む宗教上の争論は、無責任な言い方だが信仰発展上必然であったとも言える。浄円寺さんは良いこととされた。筆者の小さい頃のお取り越しは、夜の七・八時の本寺小路は人の群れでぎっしりで、その中に身を投ずると大群衆の意思の通りにか動けなかった。

その頃とは違ひ科学の進展は隔世の感で、輪廻転生などはすっかり忘れ去られたようだが、人間は死ねばゴミになる、と云われて納得できる人は少ないだろう。筆者も八十半ばを過ぎ体力は落ち世の中の邪魔になり始めたという自覚のある昨今、近づきつつある死の向うには、何が待っているのだろうか。

大野 鉄男氏（三條歴史研究会会長）

○次回の「三條別院に想う」は、

大溪 太郎氏（浄土真宗本願寺派正覚寺）より

ご執筆いただきます。

▲三條歴史研究会の会員は現在二十八名。年一回機関紙「三條歴史研究」を発行し、地元の歴史を発掘しています。なお、大野氏は善性寺（三條市裏館）の門徒です。

春彼岸会のご案内 くやちく二人会による落語と法話

春彼岸会を左記の通り厳修いたします。有縁の方々をお誘いあわせの上、是非ご参詣下さい。

◇期 日 三月十七日（金）～十九日（日）

◇日程および法話講師

十七日（金）

午後一時三十分より速夜法要

法話 本多智之 氏（第十八組 永傳寺）

十八日（土）午前十時より永代経総経

法話 やつちく二人会（落語と法話）

おととき（正午）

午後一時三十分より速夜法要

法話 ひき続き やつちく二人会

十九日（日）午前十時より日中法要

法話 やつちく二人会

▲やつちく二人会とは、石川県浄願寺の竹原了珠氏と愛知県名古屋市のアマチユア嘶家・真宗門徒の南立亭千笑氏によるコンビ。出身も年齢も異なる二人が不思議な縁に結ばれてはまりました。法話と落語の二本立てで、笑いを交えてお話しいたします（全三座）

▲十八日正午に、お斎（「聖人となかの人々」を真加金二千円にて、ご用意いたします。ご希望の方は三月十三日（月）までにご連絡下さい。

▲春彼岸に先立ち、三月十一日（土）午後二時四十六分（東日本大震災発生時刻）に勿忘（わすれな）の鐘を撞きます。



第二十三組別院巡回が行われました

二月十四日(火)に阿賀野市コミュニティーセンター湖憩の家にて別院巡回が行われ、約六〇名の方々にお集まりいただきました。三条別院の御本尊(絵像)の前で勤行し、その後、森田輪番が「むなしくすぎるひとそなき」という講題で午前と午後の二座に渡りご法話しました。途中お茶やお漬物、甘酒などを振舞っていただき、長い時間でしたが終始和やかな雰囲気でした。後述のように、三条別院巡回を随時募集しています。お申込みは三条別院までご連絡ください。



第十九組改観寺雑巾講レポート

去る二月二十日、第十九組改観寺様にて雑巾講が催され、三条別院から職員松浦が邪魔をさせていただきました。雑巾を縫いつつ皆様と談笑し、二胡の演奏とご住職の歌を楽しみ、讃岐うどんを美味しくいただく。大変楽しい時間を過ごさせていただきました。毎年十月には別院にて皆様が縫われた雑巾の

贈呈をしていただいております。今年も職員一同お待ちしております。ありがとうございました！



三条別院公開講座のご案内

二〇一七年の三条別院公開講座の講題と講師は次の通りです。

「伸びるアメリカ仏教と心理学との協力」

—日本にも到来?—

ケネス・タナカ氏(武蔵野大学教授・日本仏教心理学会会長)



昨年に引き続きアメリカにおける仏教と浄土真宗、特に今年には実践仏教としての仏教心理学についてご講演いただきます。

- ◆日時 五月十四日(日) 午後二時より
- ◆会場 三条別院 本堂 ◆聴講無料

▲なお、五月十三日(土)十四時から新潟東区プラザにて同講師による亀田地区公開仏教講演会もあります。

宗祖御命日の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日(二十七日)はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

- ◆日時 三月二十八日(火) 午前十時より
- ◆会場 三条別院 本堂
- ◆お勤め(御命日 日中法要)
- 文類偈 行四句目下
- 念仏讚 洵五
- 和讚 回口 次第六首
- 回向 願以此功德

◎今月の法話講師

木村 邦和氏 (第十三組専行寺) 【第十四章】



◆今後の講師一覧

テーマ 『歎異抄』に聞く

- 四月 濱松智弘氏 (佐渡組勝廣寺) 【第十五章】
- 五月 中原 龍氏 (第十六組福成寺) 【第十六章】
- 六月 安原陽二氏 (第十二組安浄寺) 【第十七章】
- ▲昨年一月より、『歎異抄』に聞く」をテーマに、各講師一章ずつ担当してお話しいただいております。いよいよ後半にさしかかってきました。

定 例 法 話 会

毎月十三日の前門首のご命日
(両度の命日) に行っている定例
法話会を左記の通り開催いたします。



◆日 時 毎月十三日 ※八月、一月は除く
午後一時三十分より(一時間程度)

◆場 所 三条別院 旧御堂

◆講師 二月〜四月 武樋和嘉子氏(第十五組浄覺寺)
「おもいたつころのおこるとき」

五月〜七月 永寶晴香氏(第十組浄敬寺)

五月 「遇うべきひと」

六月 「遇うべきこと」

七月 「聞くこと、歩むこと」

▲二月から四月は、女性研修会スタッフや御遠征広報部員
などを勤めてこられた武樋和嘉子氏お話しいただきます。

そ の 他 の 講 座 案 内

○別院声明教室(全五回・途中参加可能)

(月一回、午後六時〜八時)

二月二十一日(火)〔済〕、三月二十一日(火)

四月十八日(火)、五月十六(火) 六月二十日(火)

講習内容 真宗大谷派勸行集(赤本)

講師 長田 暢氏(第十六組 善興寺)

参加費 五〇〇円/回



○別院書道教室

(月二回第一、第四水曜日、午後六時三十分〜八時)

講師 木原光威氏(新潟県書道協会理事)

月謝 二七〇〇円(テキスト代含む)

随 時 募 集 中

○別院奉仕研修

日程及び内容についてはご相談ください。

◎冥加金 日帰り一五〇〇円、一泊二日二五〇〇円

◎食事代 (昼・夕食は業者発注)

・朝食代 五〇〇円、昼食代 一〇〇〇円程度

・夕食代 一三〇〇円程度

○庭講(清掃講)

三条別院庭講は本年も様々な行事を予定しております。

ご一緒に別院のお庭を整備していきませんか?

ぜひ、お気軽にご参加ください。

○三条別院有志の会

もともと三条別院のお朝事にお参りしている(門徒から
はじまった清掃奉仕・法話・座談を中心とした有志の会
です。月一回の例会、別院行事に併せた奉仕活動や季節
ごとの懇親会を行っております。

○三条別院巡回

三条別院から御本尊(絵像)をお迎えして、聞法会を開催
しませんか? 輪番と随一行一名でお勤めと法話を行います。
集会所や(門徒宅等)で開催できますので、会場や時間など
はご相談ください。

◆◆編集後記◆◆

「健康とはどのようなものだろうか。」
そう感じたのは二月十六日から十八日までの

職員研修旅行で訪れた静岡県でのことであった。

「職員研修旅行」なので、ただ暖かい熱海・伊豆

半島に観光のためだけでなく熱海の「世界救世教」

施設と、伊豆の「世界真光文明教団」本部という

二つの宗教団体を視察に行ったのだ。どちらも大

変に立派な施設で、建造には莫大な金額が必要だ

ろう。両者の大きな共通点としてはどちらも「手

かざし」と呼ばれる行為をすることだ。これは「浄

霊」と呼ばれたり「真光の業」と呼ばれるが、こ

れを受けることで体を癒すことができるそうだ。

私たちは死ぬまでいくつの病気にかかるだ

ろうか。私も今現在微妙な病気に悩まされている

が、すぐに死ぬことはなさそうだ。日本人の死因

の多くは癌だそうだが、医学は年々進歩している

ようで、癌の新治療法!というニュースも見かけ

た。しかし人間はなんらかの原因で必ず死んでゆ

く。既存の医学をやめ健康を追い求める人、また

は癌やエイズが進行した場合や、治療法が無い病

など、現代医療では治すことができない人は何に

頼ればいいのかだろうか。選択肢の一つとして先ほ

どの宗教団体もあるだろう。已むに已まれず民間

療法に訴がる人もいるかもしれない。「もつと生

きたい。「死にたくない。」という思いは人間の

最も基本的で強い欲求である。

三条別院には日々たくさんの方が来られる。み

んな大抵笑顔である。健康とはなんだろうか。真

の宗とはなんだろうか。春が近いので花粉症に悩

まされながら考えることである。

(森尻)